

広報ひらつか

—号 外—

昭和47年4月1日／神奈川県平塚市役所発行／編集・企画部広報課／浅間町9番1号 電話(22)1700—代表
毎月15日／62,000部／全世帯配布(1部5円)／昭和31年10月3日 第三種郵便物認可 郵便番号254



絶え間ない躍進は市民のおかげ

きょう、市制40周年を迎えました

昭和七年四月一日、そうです、四十年前のきょう、わたしたちのまち平塚は、横浜市の横須賀市、川崎市について神奈川県下四番目に「中部平塚町」から「平塚市」へと市制を施行しました。

いま全国の市は六三（四七）・一（現在）そのほとんどが戦後の市です。平塚の市制施行は全国で百五番目でした。平塚は、昭和のはじめから果敢の先進都市だったといえるでしょう。

いまの平塚は、平塚駅を中心とする周辺一帯が市の中心部とされていますが、その昔は漁業が盛んだった須賀や、相模川漁師の町へ、江戸への往還にあつた中原、そして東海道の平塚宿だった本宿などが栄えていました。そして明治二十一年に東海道線の平塚駅ができてからは、その繁栄はたんたん駅周辺の新宿に移ってきたといえます。

歴史は常に流れ動いています。繁栄を喜び、市制昇格に沸いた平塚でしたが、その喜びもつたの間、やがて重苦しくつらい戦争に巻き込まれていきました。そして昭和二十年の夏のたつた一夜の、あの平塚大空襲。平塚は何もかも失うてしまいました。長い戦争で衰えていたところへ追い打ちをかけられた戦災。平塚というまちの歴史はこれで終わりかと思われました。

しかし、平塚市民の底力は、みことの苦難をほねのけました。戦後の復興は、この復興を成しとげた市民のみなさんが存じのとおりです。

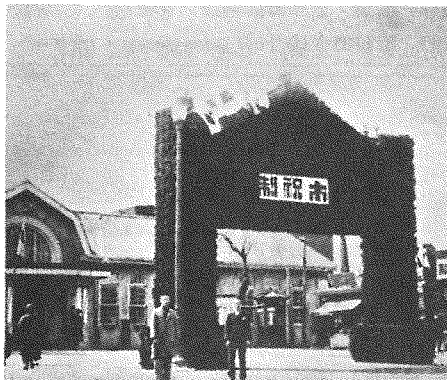
そしてきょう、ここに、市制施行四十周年を迎えました。

昭和四十七年の平塚は、市民のみなさんのおかげで、きょうも絶え間なく発展と躍進を続けています。関東大震災、不景気、戦時の苦難、戦災、戦後の混乱、復興、合併、そして工業も商業も開発も、いまにして思えば、何しかも平塚の、そして平塚市民の血となり肉となったのではないのでしょうか。

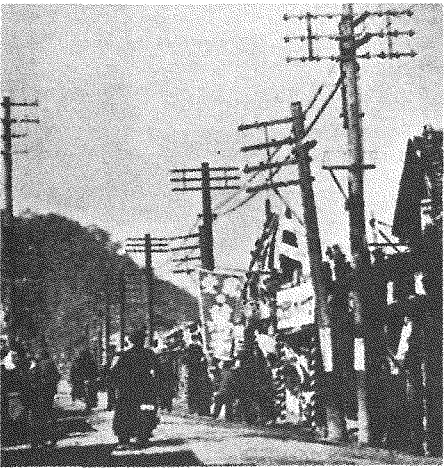
しかし人間にしても四十歳ともなれば成人病の危機が訪れます。平塚市も四十歳、発展と成長のかけにはいくつもの病根を抱えています。公害、交通問題、無秩序開発、産業と経済の諸問題などです。これらの病根に、決して市民生活が脅かされはなりません。平塚市と平塚市民は、あの戦災をけのけの生活を古とした底力をもつてわたしたちの生活の前に立ちふさがる十八の壁を破り、明日の明るく住みよい平塚を建設したいのです。

(須賀・湘南大橋の日の出)

ヒラツカ・ひらつか・平塚



上は昭和8、9年ごろの新宿大通り。下の2枚は市制施行で飾られた昭和7年の右が新宿鈴蘭通り、左が本宿大通り



昭和7年4月1日、市制施行記念式典は第一尋常小学校講堂で行なわれました。上は校門に飾られた祝賀幕。左上は平塚駅のアーチ

市制施行の思い出”
にはつぎのようにも書か
れています。

「この日から一週間、
平塚は市制祝賀のための
喜びのちまたと化しまし
た。市内の道路という道
路は、ことごとく装飾さ
れました。旗、ちようち
ん、まん幕などが美々し

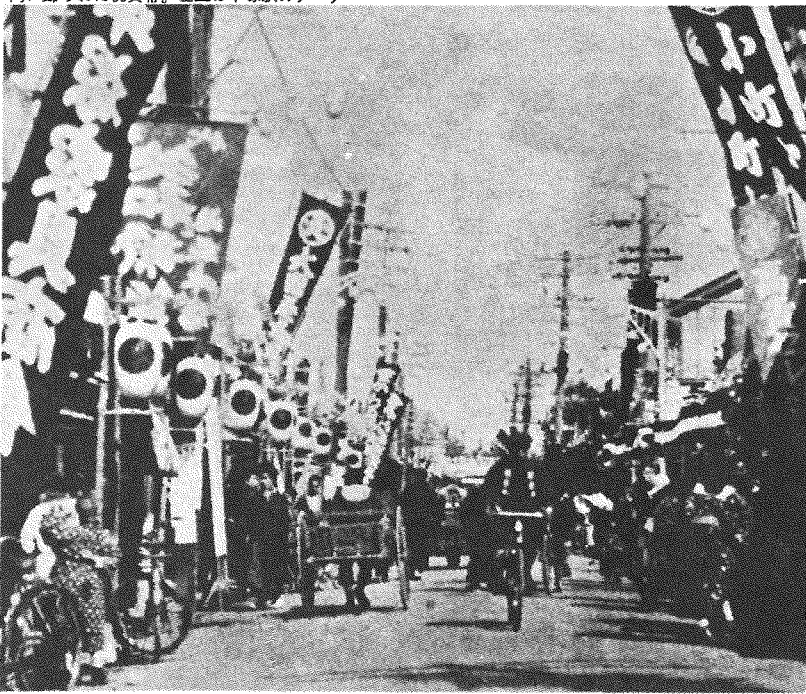
平塚市への希望に燃えた。今朝から花火が打ち上げられ、町は。新らしい。『当日は晴天です。』早朝から花火が打ち上げられ、町は。新らしい。この記事は、市制一十五年誌のことだ。市制施行の思い出に書かれているものです。ここでは数点の写真で、むかしの平塚をふり返ってみました。自動車もあまり走らない、のどかな平塚でした。

人出に混雑をきわめました。飾りたてられ、空前の出入に混雑をきわめました。当時の市民が、市になった。ことをいかに喜んだか、よくとらえています。しかる所の喜びもつかの間のことでした。日本の世情はこうときすでに、暗いかげがきてき

ていきました。市制がばかたつた。五・一五した。当時、総理大臣官署というところが平蔵にわしい、あ

あきとなつ

市制がしかれて一か月ばかりたつたある日、例の五・一五事件が起きた。当時の大菱首相が総理大臣官邸で殺害されるというこの事件が、やがて平塚にとつてもいまいましい、あの戦争への幕あきとなったのです。



市政からみた四十年のあゆみ

年表
(昭和七年から)

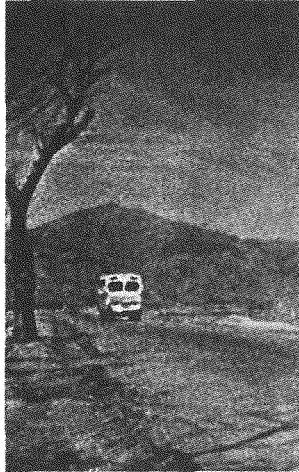
[illegible]

●戦後の平塚

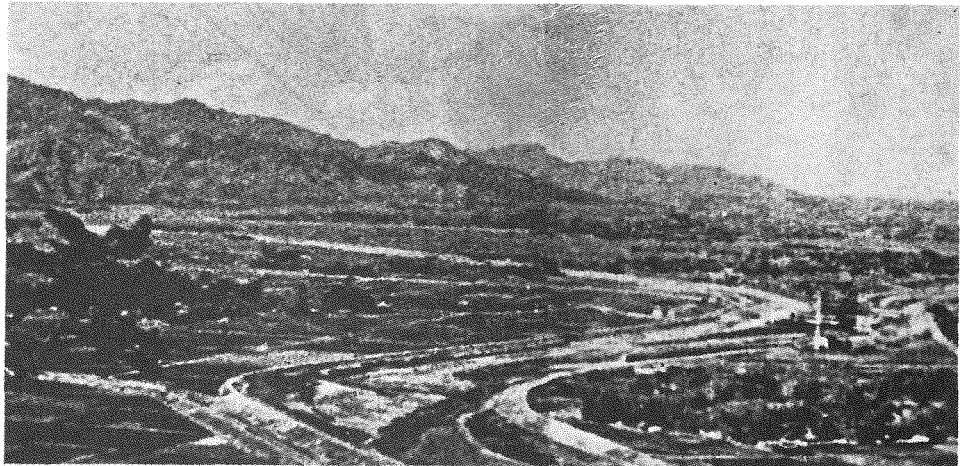
終戦で古い日本が大きく崩壊しました。平塚市民も焦土のなかにたぐましく立ち上りました。こうした世相なかで、農地改革、新しい選挙、六三制と男女共学、区画整理など、びつくりするようないろいろのことが矢つぎばやに実施されました。反対や混乱もありましたが、結果においてはすべて建設的なまっしぐらが進められていきました。平塚競輪場の開場、七夕まつりなどは市の発展と平塚市の名を全国にひろめることに役立ちました。なにもないところに家が建ちはじめ、学校や施設もつぎつぎと建設され、やがて恒久的な合併が行なわれ、今日の平塚市となったのです。



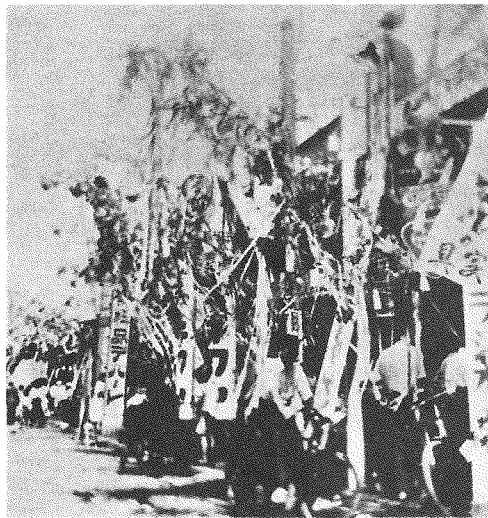
高麗山からみた昭和27年ごろの海岸地区。左端に湘南大橋が、遠くに江の島が見える。まだ家がまばらだった。



20年前のいわゆる薬野街道。長持のあたり。大山のすがたは変わっていないが。

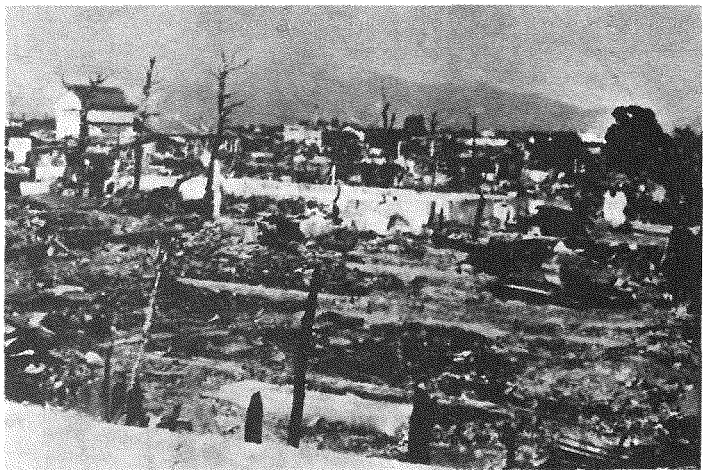


昭和27年。金目川ぞいの旭地区。まだいちめんの田畑だった。20周年映画から。

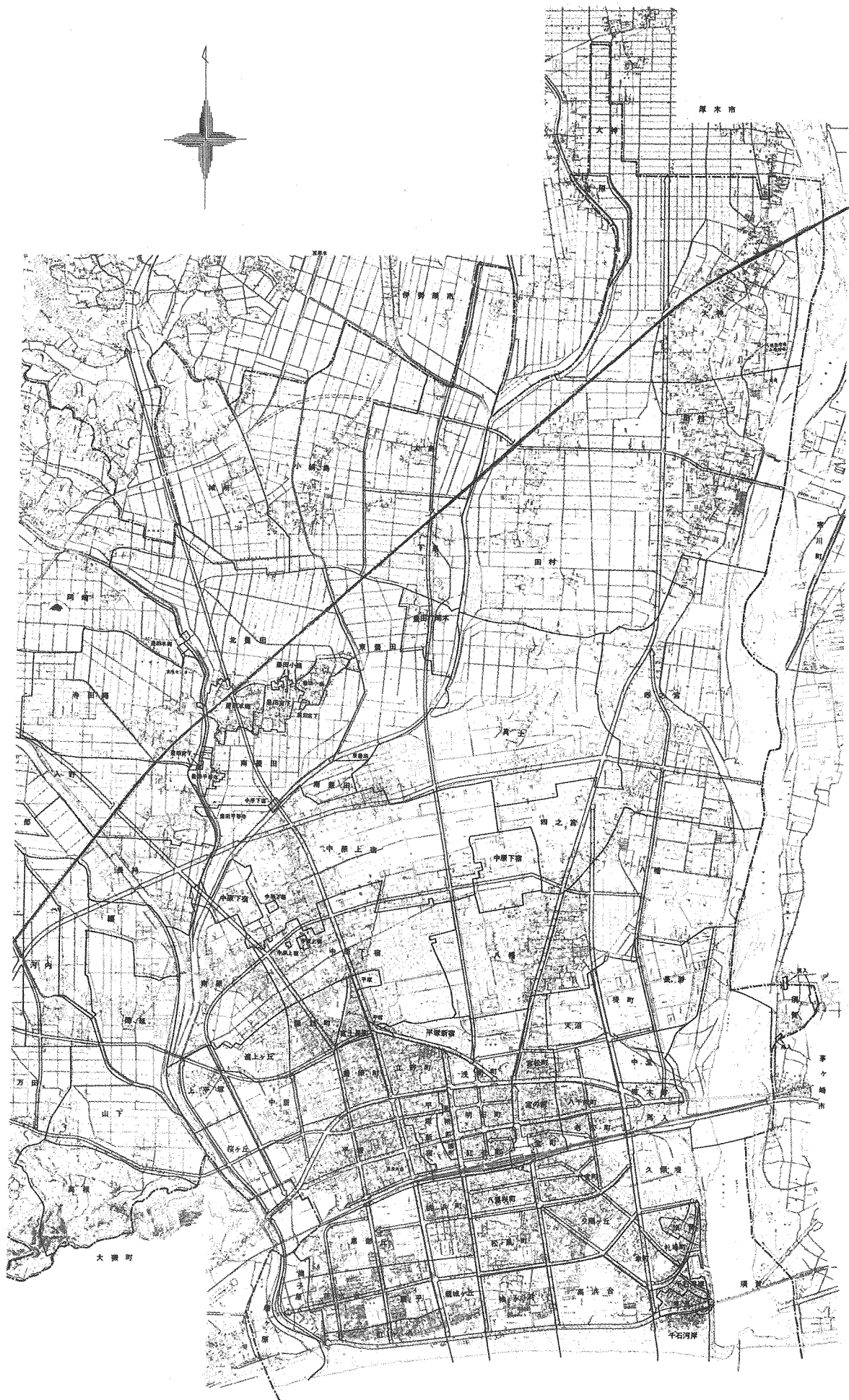


昭和26年、第一回の七夕まつり。竹飾りも小さかった。

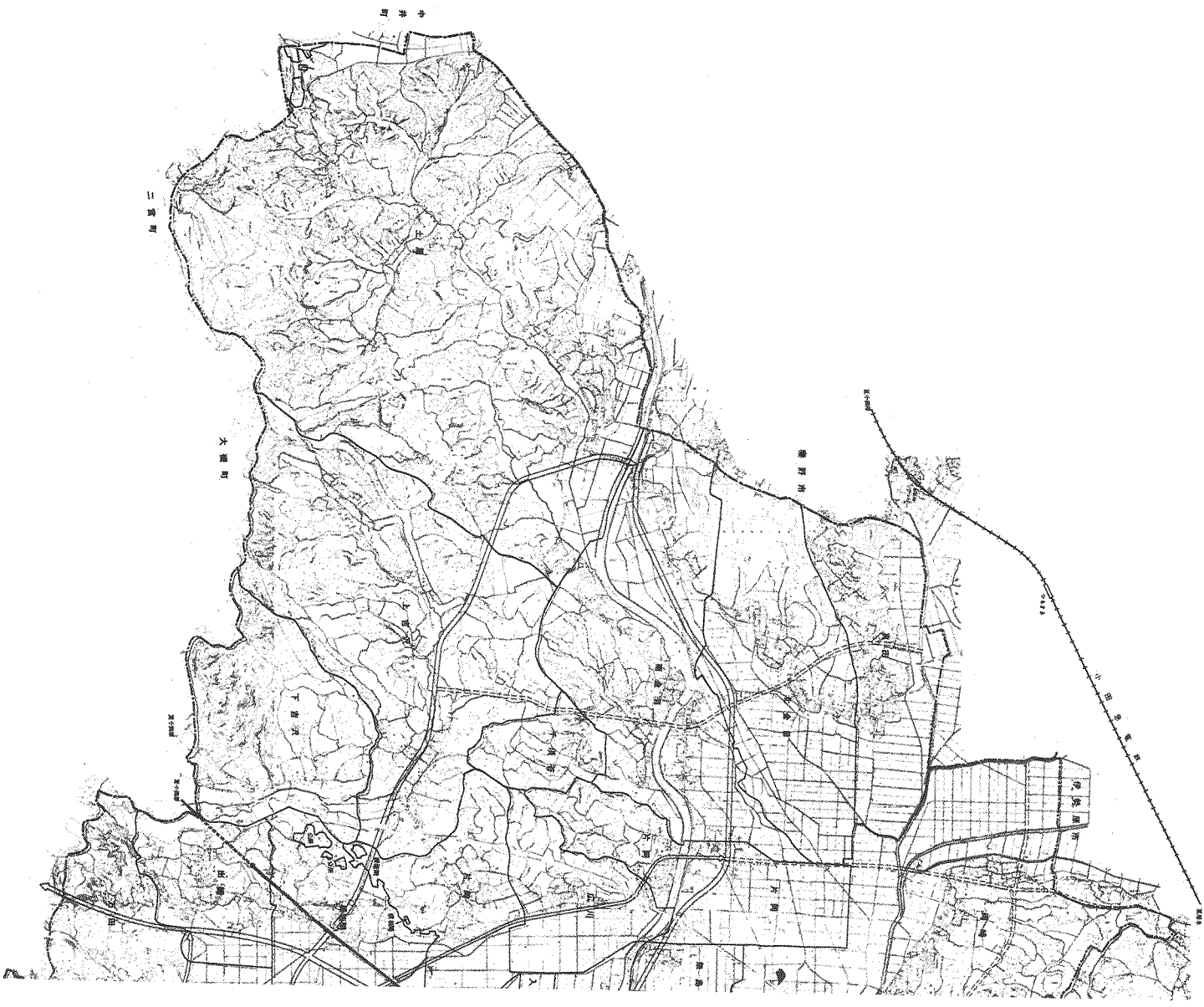
戦災直後の新宿の焼け跡風景。(三橋 蓮氏撮影)



11	6	46	45	43	42	7	8	7	40	39	38	37	36	35	34	33	32	31	30	29	28	26	25
1	29	3	12	6	7	1	8	28	2	1	5	7	1	4	7	10	5	9	10	7	7	7	5
1	29	31	28	6	15	1	15	27	3	3	1	6	10	3	15	1	1	30	30	15	4	1	1
平塚駅が完成した。総工費五百万円復興まつりが盛大に開催された。競輪場が竣工、24日第一回競輪が実施される七夕まつり、はじめて開催される。ミス平塚に和岡あき子さんが決定。第三回七夕まつりに「平塚恋しや」を発表。旭村が合併。人口三、九五四人、世帯七二二。数年来問題のあった新仲通りが貫通した。第六代市長に戸川雄雄氏が当選し、就任した。見附台体育館が完成する。第十回国民体育大会が神奈川県で行なわれ、平塚市の諸会場で競技が行なわれた。大野町、神田村、城島村、金田村、土沢村および岡崎村の大部分が合併した。人口二七、九八八人、世帯五、二二六。まらぐるみ労働祭はじめて開催。金目川が合併。人口四、五六九人、世帯七九〇。平塚駅須賀地下道が開通。花水台・撫子原などの新町名が実施される。平塚駅西口乗降口と路線橋が完成。「愛の鐘」が鳴りはじめ。し尿処理施設が大幅にできる。第一回産業まつり開催。平塚市展も六会場で平塚・厚木間新県道が完成、自動車でも15分交通安全のため黄色いオバサンが立ちはじめ。市制30周年記念事業の一つとして市民センターが完成、落成式が行なわれた。新火葬場の新設が田村に着工される。第七代市長に加藤一太郎氏が就任。大神清神楽の新しい焼却場が完成する。午前0時を期して市内電話が自動化した。新市庁舎完成、落成式が行なわれる。はじめの14歳立奉式が行なわれる。公共下水道事業が決定。市域の40%に、30年間に順徳門を投じて完成する事業が着工される。故西野一郎氏に名誉市民の称号を追贈。中央地下道が完成、開通した。湘南海岸公園に新プール三つが完成、オープン。市内主要道路の舗装率69.7%を示す。15万人目の赤やん誕生。田村三〇五七番地の鈴木洋美ちゃん。名誉市民第二号に故比企能達氏。新図書館、文化センター内にオープン。中心商店街に歩行者天国が実現した。三和ケミカル平塚工場で爆発事故。死者4人、重軽傷者14人がでた。須賀民病院が最新の設備をもってオープンした。須賀地下道が開通した。市民センターでの結婚式、この日三千組を達成。須賀地区の井戸水の塩水化が問題となり、水質検査がはじまる。追分交差点に県下初の横断地下歩道が完成。人口17万人を突破。																							



平塚市全図



凡 例	
	市界
	町界
	大字界
	市道
	町道
	大字道

自然をいつまでも

大野小学校五年
河原崎史江



私が育ったこの平塚、遠足でいろいろな所を見て回りました。湘南平、お初めの墓、平塚の塚等があります。私はこの塚を見るまで平塚という名前がついたのを知りませんでした。以前と比べるとずいぶん発展したことになりました。今では公害などさうなことがありません。一人一人が自分の周囲に気を付けて、他人のめいにくになるようなことをしなければ、少しは公害をへらす事が出来ると思います。そして平塚市の発展と共に、この美しい相模野の自然のすがたをいつまでも残せるように、私でもできるだけ努力をして愛する平塚のためにがんばりたいと思います。

撫子が似合うまち

浜岳中学校三年
赤星真紀子



太陽が昇る。海はその光を浴びて輝き、空は広々とした青さを湛えている。緑の葉は風に揺れて踊る。人々はすがすがしく一日の開幕に、たくましく力の封を切る。美しい自然の豊かな町平塚。そしてこれから平塚で燃え上がる。町全体が活気に漲る。みな懸命に生きていくのである。幼い頃母の手にすがって、七夕を見ながら、七ツを見ながら。平塚に生まれ、平塚に育った私は、この町に限りない誇りと愛着を感じるのである。

明日をひらく平塚

黒部丘 秋山昌治
(昭和七年四月生まれ)



「平塚市」が誕生したのは、ちょうど四十年前の昭和七年四月一日。偶然ながら、その翌日が私の誕生日である。まず市民の一人として平塚市制四十周年の記念日を心から祝福したい。想えばこの四十年、変化にとんだ月日であった。四十年の私の歴史(人生)に生き、私達のまちをより近代都市建設をめざして躍進しつつある。それは、安定した平塚、ではなく、今や果敢とあつて、平塚文化の創造を期待する市民は、ひとり私ばかりではないであらう。

新しい市民で成長

平塚 飯田益太郎
(昭和七年四月生まれ)



市制四十周年ということで、改めて平塚と私のことを考えてみた。私も平塚市と同じ昭和七年四月生まれだからである。私の四十年間も苦難の多い人生だったが、平塚市も大変だった。海軍火薬廠のおかげで大を成した平塚だったが、その火薬廠のために致命的な戦災を受けた。あのとき焼けた跡をみながら、果して再建できるだろうかと思つたほどの打撃だ。地元の人は、これらの新しい市民とけあつて、より住みよい平塚にしなければならぬと思う。

忘れられない戦災

見附町 渡瀬靖子
(昭和七年四月生まれ)



交差点で車の流れを眺めたり、広い道路、建ち並ぶビルを見ていると、あまりの変なように改めて驚くこのころです。平塚に生まれ、市と共に歳を重ねてまいりましたが、多くの思い出の中に、忘れられないのは戦災です。一夜で市の大部分が焼野原となり、なにもかもが無残な姿をさらし特有のにおいが立ちこめていました。多くの方が亡くなりました。やがてインフレに苦しむ毎日でした。いま、新しい街造りも進み商工業都市として発展を続けていますが、これからの教育をはじめ多岐の施設を充実し、躍進を続けてほしいと思つています。

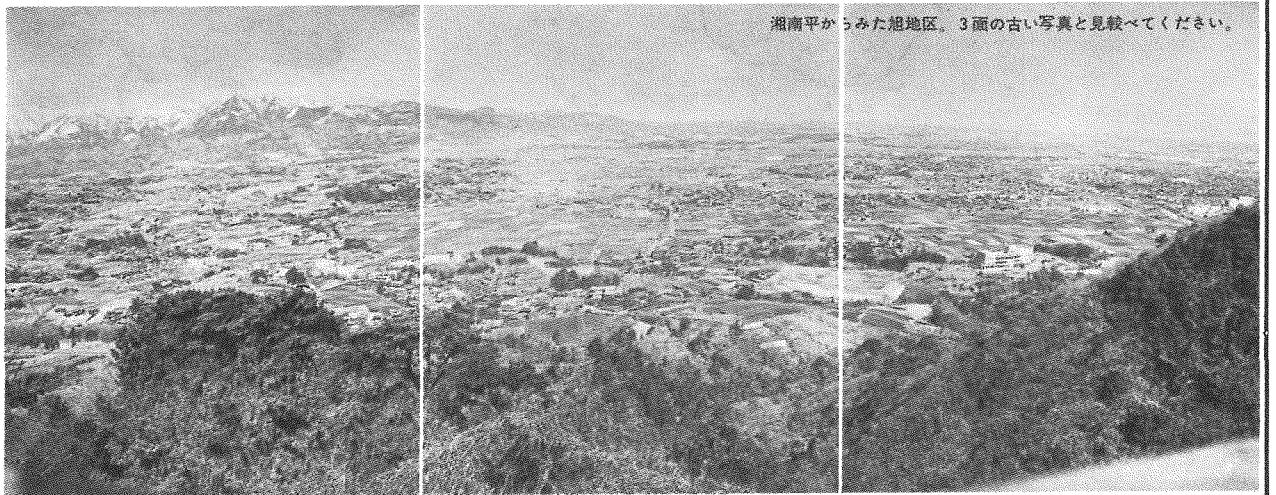
平塚に限りない愛着

豊田宮下 片倉藤吾
(昭和七年四月生まれ)



ビリビリし、「やあ、苦勞さん」「お早よう。車はちよつと待ってね。さあ一列で渡るんだ。気をつけて学校へ行きなさいね。」手提げカバンに白短靴、純白のトレーパンが目に見える。素足に風呂敷包みの通学、自然相手の遊びであった私達少年時代とは生活も環境も随分と変わった。戦後の混乱期を経て都市計画は着実に施行され、商工業都市の声をあげた日に人生の第一歩を記した。以来、私を育んだこの土地、思い出を秘めたこの平塚に限りない愛着を覚える。そして齢四十を迎えた今日、残る半生を郷土平塚の発展のために尽そうと思ふ。

湘南平からみた湘地区。3面の古い写真と見比べてください。

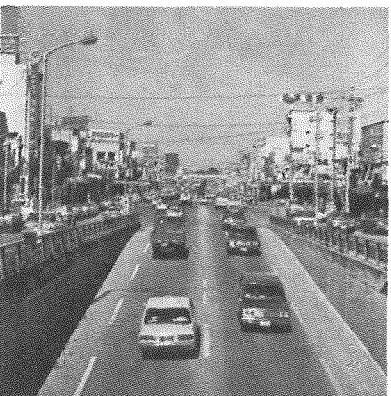




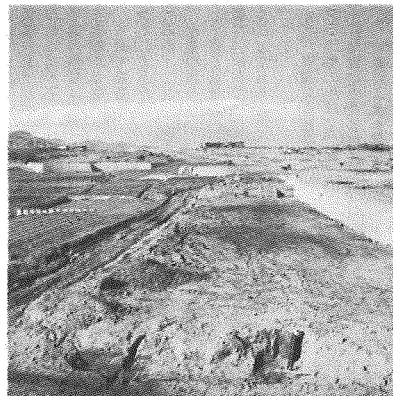
市民の書齋としてすでに40万人の利用者を記録した図書館。文化センター建設の準備もすすみ、教育施設の充実には教育文化都市の名にふさわしい。



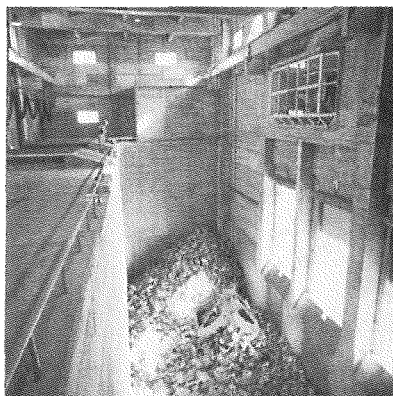
10,000人の児童に給食できる学校給食共同調理場と、災害時に威力を発揮する消防一斉指令装置が完成、こどもと市民のための活動が期待されます。



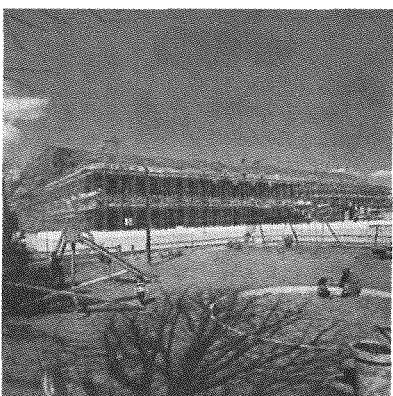
立体交差や地下横断歩道、また網の目のように整備された道路など平塚の道路事情は抜群ですが、将来はなお、80%の舗装が計画されています。



岡崎の大手宅地造成。田畑が埋められ、山が崩されて家が建っていきます。平塚もいまや首都圏のベッドタウンでしょうか。無秩序開発を恐れます。



ゴミ処理問題は全国的な都市の悩みですが、平塚は地元市民の理解と協力で新処理施設ができ、市民の衛生と安全のため間もなく活動を開始します。



1億3千万円をかけて大改修を行なっている見附台体育館。青少年の健全育成や体育の場として、将来は総合グラウンドの建設も計画されています。

あすはひらつく

終戦前後 篠原忠治郎(元市長)



私はかつて県在職中、平塚・須馬岡町の合併および平塚市の誕生にあたり産業役をつとめたが、当時の人口はわずか三万四千余人に過ぎず。その後私が平塚市長として迎えられた昭和十八年は、あたかも太平洋戦争の真最中で、市民共ども不眠不休で国土防衛に全力を傾倒したが、同二十年七月十六日の空襲で市の大部分を焦土と化し、八月十五日ついに終戦となった。そこでは直ちに委員会を設け、戦災復興基本計画を決定し、これの実施を県に委託したところ県は直轄事業として昭和二十一年度早々着手されることになった。いらい二十有余年、歴代市長の努力と産業経済の躍進とともに市勢も活発で、いまや人口も十七万を超え、ここに華々しく市制施行四十周年を迎えることは誠に感慨深いものを禁じ得ない。

少年期の受持教師 柿澤篤太郎(元市長)



私は平塚が十五歳から廿三歳まで、八年間の受持教師であった。平塚と言ふ少年は十三歳夏の戦災を頂点とした前後数年の不幸に疲れ果てた傷だらけの少年であった。私はこの紅顔無惨な少年に対し心を鬼にしてスバルタ教育をした。この時期にあらざれば到底なし得ない骨格造りに専念した。しかし平塚と言ふ少年はよく私の苛酷な鞭に堪えて不死鳥の如く逞ましい青年になつてくれた。廿三歳になつて、私の手を離れた荒けりの青年平塚はその後より指導者を得て、体軀は肥え血色は良くなり教養を身につけ研鑽怠たらず遂に本日茲に重厚悠揚たる四十歳の壮年となった。且つて受持教師として精根を傾け盡した私は今年四十七歳の病床にあつてこの熾衰たる「不惑平塚」の雄姿を憶れ惚れと見滞れて止まない。

不惑の顔 戸川貞雄(前市長)



市歴四十年と言ふから人生不惑の働きざかりである。特色ある個性的な都市づくりはこれからである。人間四十すぎからの顔はじめて自分の顔と言われる。私の市長就任時には二十五周年を迎え、市民生活でも銀婚式に当るから、昭和七年、市制施行の年に結婚してこんにちまで夫婦健在で市の発展に寄与してくれたカッパルを選び市の記念行事に錦上添花を添えようとしたところ、ヤボな(これは失礼)市議会に予算を否決されて残念なおじやんになった。なりふりかまわずただこれ戦災復興の難事業に取組んでいる市民感情からすれば、作家市長なんてのんきなものだと思われてはならない。だが、これからはがう衣履足りて健やかに不惑を迎えた自分の顔がここにある。

平塚市長 加



し、思索を深めてまい
存じます。

も
た
ち
が
……

ら、公害や事故が大きな社会問題になるわけです。自動車为社会に果たす役のどかさが懷しまれ、そのほかに記録で

- ◇記念文化講演会
4月1日・午後1時30分・市民センター
講師・大江健三郎氏（作家）・李恢成氏（作家）
- ◇ラジオ公開放送
4月2日・午後1時・市民センター・ラジオ関西
（平山三紀・三笑亭笑三ほか出演）
- ◇音楽隊市中パレード
4月2日・午後1時30分・国道一号線歩行者天国
（小学校、中学校、東海大学の音楽隊）
- ◇記念はがきの発売
4月1日発売・2枚1組60円・販売数3千組
- ◇平塚教育資料展（学制発布100周年記念）
4月1日～3日・崇善公民館
- ◇花き展示会
4月1日～3日・梅屋デパート・切花生産業者
- ◇植木市
4月1日～4日・八幡山公園・植木、鉢物即売
- ◇花いっぱい運動
4月2日・市内一円

市では、市制施行四十周年を記念して多岐な記念行事を計画しました。そのあらまは一月号の広報ひろがつかでお知らせしましたが、その一つに記念映画の制作があります。市では、市制施行四十周年を記念して多岐な記念行事を計画しました。そのあらまは一月号の広報ひろがつかでお知らせしましたが、その一つに記念映画の制作があります。市では、市制施行四十周年を記念して多岐な記念行事を計画しました。そのあらまは一月号の広報ひろがつかでお知らせしましたが、その一つに記念映画の制作があります。

この映画は、市制四十周年を記念した昭和四十七年現時点の平塚、十七年現時点の市勢や、市民の暮らしや、環境、産業経済に、都市の形態などを記録として将来に残そう、というもので、十六ミ

し十月ごろまで続けられ、



市制30周年記念の昭和37年
られた記念映画のタイトル
カラー作品でした。

完成當年末に
なる予定です
映画は多くの
市民に見ても
らいますが
平泉の歴史の
証拠としてそ
く将来に幾
こととして